

台湾「ゼロ原発排除」国民投票・勝利の調査報告書

I、目的

台湾は何故国民投票で脱原発法(2025年)を廃止できたか、日本に参考になることがないかの調査のため、黄士修(ファンシシュウ)氏及び台湾原子力学会の方々と面談をした。

(注)台湾のエネルギー状況は謝牧謙先生の『アジア初の「非核国家」成り立つか』に詳しく記載されています。ご要望の方は申し出てください。

II、日本での報道

2018年11月24日の国民投票により『2025年原子力発電の全廃止法』の廃案を問うた結果、同法を廃止する結果となった。その立役者は31歳の若者、黄士修の活躍によるものと日本で報じられた。

III、黄士修氏の活動

彼は5年前にインペリアルカレッジロンドン(2011年から2012年理論物理学グループ)の大学院生を経て帰国したが、福島事故の後で、原子力反対運動が高まっていたが、反対派の主張、特に日本の元総理である菅直人が流言した原子力発電に関する内容が、事実に基づいておらず、国民の不安をあおっていたことに疑念を持ち、『核能流言終結者 NuclearMythbusters』というグループを立ち上げ、20から30名の active なメンバーと活動を始めていた。彼の才能を見込んだ李原子力学会理事長が若者のリーダー役を与え見事にその役割を果たした結果の国民投票の勝利である。

(注)黄氏の経歴は添付資料を参照願います(英文)

IV、台湾の原子力学会の方々へ面談を申込み、経緯を聞いた。

ご協力者

謝牧謙・財団法人原子力情報センター顧問

李敏・清華大学原子科学院院長

石 門環・財団法人原子力情報センター顧問

黄士修氏 Nuclear Mythbusters 創始者

2011年3月11日の福島第一事故後、台湾の反原発運動は日増しに高まり、また2012年末の日本の民主党敗北による政権交代後、菅元総理まで台湾に反原発を煽る活動を繰り返していた。またマスコミも同じく反原発に偏重していた。この時期は謝先生でさえ原子力発電に関する発言は容易にできない状況であった。そのような国民感情を受けて当時の馬政権は2014年4月に第4原子力発電の試運転中の1基を停止し、かつ建設中であった2基目の龍門プロジェクトを凍結せざるを得なかった。2015年の電力構成は80%が火力発電、うちガス火力が50%、石炭火力30%でその他のエネルギーは原子力発電14.1%、再エネ5%であった。そして反原発を旗印に選挙を戦った民主党の蔡政権が2016年1月に誕生した。



台湾における台湾第四原子力発電所の位置



右から2号機（日立製）、1号機（東芝製）。左の塔は抗日記念碑。

日本は国交が無い為 GE 経由で建設を担った。

蔡政権成立後は脱原子力政策を進め、2017年1月11日に2025年までに脱原発を実施すべく法案を可決した。政府は再生可能エネルギーを推進し2025年までにエネルギー構成比を再生可能エネルギー20%、石炭火力30%、ガス火力50%とすることを目標としていた。しかしそのころから国民の関心は電力価格がどうなるかに傾きつつあった。また、石炭火力発電の排煙による公害（スモッグ）が国民に不安を与えるようになり、政府は新たに石炭火力発電所の建設を予定していたが取りやめなければならない国民感情が沸き起こってきた。折しも同年の8月15日に桃園市の火力発電機6基すべてが5時間停止し、台湾各地で大規模な停電が発生し、北部の台北から南部の高雄まで台湾の全契約世帯の約半数の668万世帯が停電となった。これは政府目標の電力予備率15%を遥かに下回った3%状態が継続していたことによるものであり、我が国日本の北海道のブラックアウトと極似している。



2019年1月11日 AM10:00 台北から桃園空港へ向かう窓からのスモグックの景色

このような生活環境の変化によって少しずつ国民の意識も変わり、原子力学会も原発推進に向けて活動できるようになっていった。5年前(2013年)に台湾へ帰国した黄氏は脱原発の強い世論の時期ではあったが原発無くして未来社会は成り立たないと確信を持ち『核能流言終結者 NuclearMythbuster』を立ち上げ20名~30名で active に活動を始めていた。

そのような折、台湾原子力学会の李理事長から黄士修氏が、若手活動家を中心に原子力発電をより国民に理解してもらう啓蒙活動をしてほしいとの要請を受けた。そしてスローガンは『以核養緑(原子力発電で空気をきれいにして緑を守ろう)』、国民投票の年である2018年1月末に原子力学会の李敏理事長がフェイスブック等で廃案を呼びかけ2000名~3000名の支持を得た。国民投票に至るまでには3つのステップがあり、ステップ1が国民投票に掛ける為の3000名の署名を得ること。ステップ2は28万人の署名を集めること。このことを実現するために2ヶ月かかったが、結果として34万人の署名を得た。ステップ3は8月24日までに全ての関係書類を準備し、選挙管理委員会に提出することであり、これを1ヵ月でやる必要があった。活動は全てボランティアベースであり、署名活動もネットを通じてボランティアを募り、資金は募金で集めた800万台湾ドル(日本円で2500万円)で活動を行った。と言っても署名用の用紙の印刷代や切手代でそれぞれ100万ドル、250万ドル必要だったので潤沢な資金とは言えず、国民投票の案件が10案あった内、他の活動資金と比べ一番少ない資金であった。なお募金の協力者は中小企業と個人であった。活動の中心人物は3名で李理事長と黄氏、廖彦朋の3名、若者に影響を与えられるようにリーダーを黄士修氏になってもらった。若者のグループは20人ほどで活動した。黄氏のアイデアでホームページやSNSを駆使して従来の街頭活動に加え若者らしい情報拡散の手法を取り入れた。黄氏と話していて特に印象的だったのは、従来の手法だけに囚われず、また理論で考えるのではなく、何事もチャレンジ精神が大事と力説していたことだ。情報拡散の手法に取り組んで成功はしたが、当初確信をもってと言う程ではなかった、今回の結果に黄氏も驚いていると言っていた。拡散の考え方は1人は10人を10人は100人を、そして100人が1000人に自分たちの考えを広めて行こうと

の手法である。ここが大事であると黄氏は力説していた。この拡散方法の結果は学会の長老たちは予想もしていなかったとお聞きした。やはりいつの世も若者が時代を変える原動力であるという事を思い知らされた。

このころでもマスコミから、『以核養緑』活動に対して『今後20基の原発建設を掲げ、国民党よりの主張を行っている』と活動を攻撃されていた。



中央が黄氏



李 理事長

2017年の大停電の後、2018年の2月の世論調査ではリング日報では70%を超える原発賛成者があり、民進党系の調査でも6割を超える人達が原発賛成を唱えた。この理由は、福島事故は収束し復興を果たしている状況を台湾の人は知っており、かつ台湾ではまだ事故は起こっていないにもかかわらず原発廃止はおかしいと考えているからであろう、流れが変わってきていた。

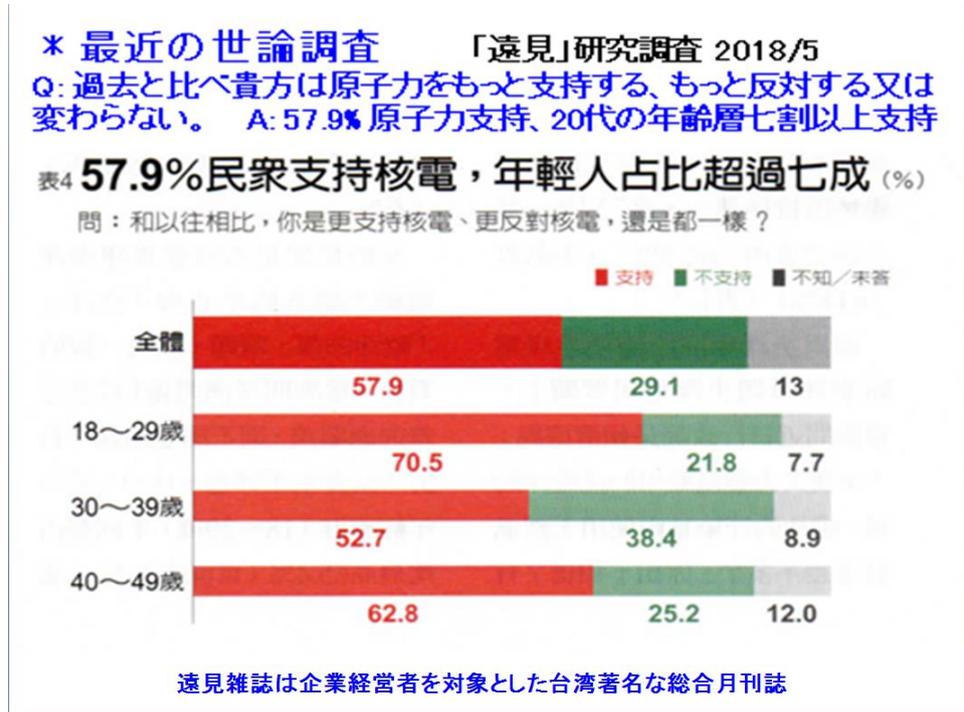


〇1万

本調査は「風伝媒」と「新新聞」が台湾指標民調に委託、2018/8/1～8/10 期間に電話訪問で行われたものである

その後、政府は2か月以内に原発の運転延長を含む新エネルギー政策をまとめる方針を示した。第4原発の稼働と建設開始を含むかどうかは現時点(1月末)では不明。

V、年代別意識



台湾世論調査》「2025非核家園」支持度落ちる！49%民衆反対，36.6%のみ賛成
 陳煜 2018-08-29 11:30

「2025年ゼロ原発」目標達成のため、2025年までに台湾三か所の原発を永久運転停止し、将来原発を再び使用しません。あなたは同意しますか？

	とても賛成	賛成	合計	反対	とても反対	合計	回答ナシ
總和	14.7%	21.9%	36.6%	21.2%	27.8%	49.0%	14.4%
20-29歳	14.0%	29.4%	43.4%	22.9%	27.1%	50.0%	6.5%
30-39歳	12.5%	24.3%	36.8%	26.9%	28.7%	55.6%	7.6%
40-49歳	14.1%	17.7%	31.8%	21.6%	38.6%	60.2%	8.0%
50-59歳	15.2%	19.3%	34.5%	20.6%	28.6%	49.2%	16.3%
60-69歳	18.3%	24.2%	42.5%	16.5%	23.1%	39.6%	17.8%
70歳以上	15.2%	14.9%	30.1%	15.7%	12.8%	28.5%	41.5%

資料來源：台湾指標民調

製表：風傳媒

本調査は“風傳媒”と“新新聞”が台湾指標民調に委託、2018/8/1~8/10 期間に電話訪問で行われたものである

VI、まとめ

1、 何故国民投票で勝利を勝ち得たかの要素分析

(1) 環境悪化(スモッグ)毎日のことで日増しに悪化する空気の汚染に触れ危機意識が国民に芽生えていた。

(2) 2018年8月15日の大停電により蔡政権に対するさらなる不審が募った。

(3) 電気代が高騰してきている折、再生エネルギーである洋上風力発電の性急な計画推進に国民から疑問が上がってきた。

(4) 情熱ある若手の黄氏、また若者を勇気付け、自らも身を粉にして活動された李先生がおられたことによる、全活動のリーダーシップ。原子力学会が一丸となっている。

2、 日本はどうすればよいか？ 何が参考にできるか？

(1) 国民投票勝利の最大の要素は環境破壊である。日々の生活を脅かすスモッグ。これでよいのか、と毎日疑問がわいてくる環境と日本は少々違う。工業都市である北九州市でさえもスモッグは解決できている。日々の環境問題ではなく将来のエネルギー枯渇を訴えること、また自給率8%は安全保障上非常に危険であることを国民に理解してもらうことが日本として適切と思われる。よって啓蒙活動はもっとパワーを必要とする、と考えられる。

(2) 原子力学会のSNWとYGNのリーダーシップによる国民へのPR活動の強化。政治家が安心して原子力発電を後押しできる環境づくり。

(3) 情報拡散の導入。『核能流言終結者』のホームページは大変参考になる内容です。日本の原子力学会若手グループに参考にしてほしいものです。また『以核養緑』でもホームページがあり、いずれもfacebookあり。

以核養
緑 <http://www.green-nuclear.vote/>

核能流言終結者 <https://www.facebook.com/NuclearMythbusters/>
どちらも日本語に翻訳できます。画面の右上に翻訳の表示が無ければ
右クリックしてメニューから「翻訳」を左クリックしてください

3、 各氏からの要望と意見

(1) 李 理事長からの要望

是非、NHKに今回の国民投票に関する取材をしてほしい。日本での勧誘活動をお願いします、とのことでした。

李理事長からのメッセージ（なぜ報道依頼をしたか）

イ、台湾の『以核養緑』国民投票は世界初の原発賛成を訴える全国投票のケース、と同時に成功したケースである。『脱原発は国民の総意ではないことを知らせることができる。

ロ、台湾の『以核養緑』の発起人とボランティア参加者全て政治活動家ではなく、政党、財団、関連企業のサポートもなく、情熱、理想と国家の未来の為に、この不可能な役割を成し遂げた。

ハ、NHKの要望によりボランティア等の取材をアレンジすることができます。

(2) 謝先生からの要望

放射線副読本(小学生向け) 放射線副読本(中学、高校生向け)の著作権の中国語翻訳の認可を文部省に交渉してほしい。

文部省としては国レベルならまだしも、1団体に著作権を与えることはできないとの回答であった。しかし不可の文面とは異なり実情は大変好意的であった。

(3) 黄士修氏の要望

日本での調査活動を円滑にしてほしい。要望があれば当方で解決すると面談時に即答。以前福島の見学を申し入れたが台湾の原子力推進の活動家であることが分かり、来訪を拒否された。

(4) 謝先生からの質問

日本に国民投票はあるのかの質問。中崎、回答していない。日本での経験がないので無いと思いますと回答しましたが、帰国後の調査で『ありません』が正解です。

(5) 当方から要請

日本の原子力学会の若手連絡会・ヤングジェネレーション(YGN)と交流を持ってほしい。台湾の原子力学会にも若手のグループがいます。是非やりましょうと返事があった。

以上

<添付>

Huang, Shih-Hsiu

e-mail: hyuui@hotmail.com

mobile: 0912-381482

Education

Imperial College London, United Kingdom

Graduate student of Theoretical Physics Group, 2011-2012

(Leave of absence, due to health reasons.)

National Tsing Hua University

Interdisciplinary Program of Science: Physics & Mathematics, 2006-2010

Work Experience

“Fang He” Media CO.,Ltd

Consultant, 2018–present
Chinese Cyan Geese Peace Education Foundation
Consultant, 2018–present
“Youth Generator” Live Streaming Platform of Student Sports
Editor, 2017–present
NGO “The Society of Nuclear Mythbusters”
Founder & CEO, 2016–present
National Policy Foundation
Contract Research Fellow, 2015–2018
Administrative Assistant, 2014
Changhua Arts Senior High School
Math Teacher, 2013–2014
National Center for Theoretical Sciences Mathematics Division
Research Assistant, 2010–2011

Activities

“Go Green with Nuclear” Referendum
Initiators, 2018
2nd Nuclear Safety Commission, New Taipei City Government
Supervisor, 2015

4th National Energy Conference, Ministry of Economic Affairs
Delegate, 2015

Science Website “Nuclear Mythbusters”
Co-founder, 2013–present

National Tsing Hua University
Freshmen Tutor, 2008–2009

Honors and Awards

Graduation with Distinction Awards, 2010
Chun–Tsung Scholar from Chun–Tsung Endowment, 2008
The College of Science Young Elite Scholarship, 2007, 2008, 2009 (3 times)